

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年1月17日聖日礼拝

新年の思いめぐらし

「主は ... 助けまさん」

創世記13章1-18節

河村従彦牧師

聖書朗読

旧約聖書

創世記 1 3 章 1 節 - 1 8 節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています

第二版の聖書は 16 ページ

第三版の聖書は 18 ページ

- 1 それで、アブラムは、エジプトを出て、ネゲブに上った。彼と、妻のサライと、すべての所有物と、ロトもいっしょであった。
- 2 アブラムは家畜と銀と金とに非常に富んでいた。
- 3 彼はネゲブから旅を続けて、ベテルまで、すなわち、ベテルとアイの間で、初めて天幕を張った所まで来た。
- 4 そこは彼が以前に築いた祭壇の場所である。その所でアブラムは、【主】の御名によって祈った。

- 5 アブラムといっしょに行ったロトもまた、羊の群れや牛の群れ、天幕を所有していた。
- 6 その地は彼らがいっしょに住むのに十分ではなかった。彼らの持ち物が多すぎたので、彼らがいっしょに住むことができなかったのである。
- 7 そのうえ、アブラムの家畜の牧者たちとロトの家畜の牧者たちとの間に、争いが起こった。またそのころ、その地にはカナン人とペリジ人が住んでいた。

- 8 そこで、アブラムはロトに言った。「どうか私とあなたとの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちとの間に、争いがないようにしてくれ。私たちは、親類同士なのだから。
- 9 全地はあなたの前にあるではないか。私から別れてくれないか。もしあなたが左に行けば、私は右に行こう。もしあなたが右に行けば、私は左に行こう。」

10 ロトが目を上げてヨルダンの低地全体を見渡すと、【主】がソドムとゴモラを滅ぼされる以前であったので、その地はツォアルのほうに至るまで、【主】の園のように、またエジプトの地のように、どこもよく潤っていた。

11 それで、ロトはそのヨルダンの低地全体を選び取り、その後、東のほうに移動した。こうして彼らは互いに別れた。

12 アブラムはカナンの地に住んだが、ロトは低地の町々に住んで、ソドムの近くまで天幕を張った。

13 ところが、ソドムの人々はよこしまな者で、【主】に対しては非常な罪人であった。

14 ロトがアブラムと別れて後、【主】はアブラムに仰せられた。「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。

15 わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。

16 わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう。

17 立って、その地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに、その地を与えるのだから。」

18 そこで、アブラムは天幕を移して、ヘbronにあるマムレの檜の木のそばに来て住んだ。そして、そこに【主】のための祭壇を築いた。

説教

新年の思いめぐらし

「主は・・・助けまさん」

創世記 13章 1節-18節

河村従彦牧師

主テキスト

主はアブラムに仰せられた。

「さあ、目を上げて、

・ ・ ・

わたしがあなたに、
その地を与えるのだから。」

(創世記 13 : 14 - 17)

. 状況

A ロトとの離別

B 区切りと岐路

- 1 岐路で選択するのはいやなもの
- 2 人間的なものがきっかけになって、岐路に導かれることがある
- 3 選択は必ずしも主体的ではなかった
- 4 選択したあとのことはまったく見えていなかった

・ 信仰によって生きる

A 展望すること ~ 見渡しなさい

B 神さまの答え ~ 全部を与える

C 目を上げて

D 実体験としての深化

E 知らなければならなかったこと
主の山には備えがある

・ 主の山の上の備えに生きる

A 踏みだす信仰 「やってみる瞬間」

B 自分で選ぶことをしなかった

C 自分がこだわりがあるもの

D 人の危うさ、神さまの確かさ

E 神さまが出される結論